



環境経営レポート 2025

対象期間:

2024年4月1日～2025年3月31日

発行日: 2025年6月30日



大栄環境グループ

大栄アメット株式会社

目次

1.ご挨拶	3
2.会社概要	4
3.大栄アメント各施設の紹介	7
4.車両・重機の紹介	9
5.許認可・許可品目	11
6.処理フロー図	14
7.環境理念・環境経営方針	15
8.実施体制	16
9.当社活動とSDGsの関わり	18
10.マテリアルバランス	19
11.過去4年間の二酸化炭素排出量等の推移	20
12.環境活動計画の評価	21
13.法令順守	30
14.教育・(講習)・資格・訓練の実施	31
15.環境活動	35
16.大栄環境グループの取り組み	39
17.代表者による評価と見直しの結果・指示	42

1. ご挨拶

私たち大栄アメット株式会社は、京都府福知山市を拠点に近畿地方の北部を主として活動している産業廃棄物処理（収集運搬・中間処理）の専門企業です。

大栄環境グループの一員として、グループの総合力を活かした提案により顧客満足度の向上に努めております。私たちはサステナビリティ基本方針を「未来は、信頼から生まれる。」とし、地域社会を含むすべてのステークホルダーの皆さまとの永続的な信頼関係を構築することこそが、サステナブルな未来へのスタートラインであると考えています。

近年物価高によりあらゆるコストが増加し、また人口減少に伴い廃棄物の発生量も減少傾向にある中、我々産業廃棄物処理業者も淘汰されていくと考えられます。

そのような中でこそ、ステークホルダーの皆さまとの「信頼」を根幹とし、環境規制に適合したプロセスを徹底し、廃棄物リサイクル率を向上させ、持続可能な循環型社会の実現に貢献できるよう尽力してまいります。

エコアクション21活動も8年となり、従業員全員参加でPDCAサイクルを回し、エコアクション21の取り組みを活用しコスト削減、CO₂発生量削減に奮闘しています。その2024年度の取り組み内容をこの環境経営レポートに凝縮して掲載いたしました。まだまだ発展途上の取り組みではございますが、最後までご覧になっていただけますと幸いです。

環境管理責任者 大井 智和

2. 会社概要

大栄環境グループの概要

(2025年6月27日時点。ただし従事者数は除く)

組織構成

連結子会社 42社

大栄環境株

三重中央開発株	DINS関西株	株共同土木	株ジオレ・ジャパン	株セーフティーアイランド
株資源循環	京都かんきょう株	株神戸ポートサイクル	大栄アメント株	株提供
株クリーンステージ	株ブラファクトリー	株クリエイトナビ	株東北エコクリーン	近江八幡エコサービス株
三基開発株	株グリーンアローズ関西	株ソフトウェア トータルサービス	株九条	株総合農林
株ディンズ環境 分析センター	株ディーデザイン株	株大栄環境総研	資源循環システムズ株	DINSみらい株
株アイエス・ジャパン	株有聲浄水	株アイナックファクトリアル	DINS北海道株	忠岡エコサービス株
株和利サイクル株	株清安清潔	株アイア	株グローバル・ エンバイロメンタル・テクノロジ	株生エコサービス株
株海成	株クリーンテック名張	株肥前環境	株宮島エコサービス株	株京都エコサービス株
農事組合法人ねぎばーず	農事組合法人農山			

非連結子会社 2社

株福知山ゴルフ株	農事組合法人農山
----------	----------

持分法適用関連会社 6社

株メジャーヴィン・ジャパン株	株リエネルミエ株	株シムファイブ株	株KOBÉバイオスウェッジ株	株旭硝子株
----------------	----------	----------	----------------	-------

北口建設工業株

持分法非適用関連会社 5社

株コウキ	株エコクリーン大和郡山	株グリーンアローズ ホールディングス	株新エネルギー供給	株かけがね環境パワー株
------	-------------	-----------------------	-----------	-------------

※従業員（臨時雇用者含む）数は、当社及び連結子会社に於いて、非連結子会社を含めております。

2025年5月末時点

従業員数*
(臨時雇用者含む) 2,774 人
専従協力会社
従事者数 721 人
合計従事者数 3,495 人

廃棄物処理・資源循環等事業拠点



汚染土壌処理施設 総許可能力

熱分解・溶融	洗浄	乾式磁力選別	分別・不溶化・化学脱着
487 t/日	708 t/日	2,520 t/日	8,200 t/日

※上記9地域の最終処分場のうち3地域で埋立焼却施設としての許可を有する。

■大栄アメット概要

事業所名	大栄アメット株式会社
所在地	京都府福知山市土師宮町1丁目17番地
連絡先	TEL (0773)20-2020 FAX (0773)20-2000
創立年月日	平成2年(1990)5月2日
代表者	代表取締役 大田 成幸
資本金	1億円
事業期間	2024年4月～2025年3月末
従業員数	42名(男性:29名 女性:13名)
認証範囲	大栄アメット株式会社
対象事業所	本社:京都府福知山市土師宮町1丁目17番地 本部:京都府福知山市土師宮町1丁目38番地 第2処理場:京都府福知山市字正明寺小字向野15番ほか2筆 第3処理場:京都府福知山市字川北小字キロクジ13番11ほか3筆 第4処理場:京都府福知山市字堀小字段畑2885番、2521番 安定型最終処分場:京都府福知山市字北山小字大和垣1番5ほか8筆
事業内容	産業廃棄物の収集運搬・中間処理・最終処分 一般廃棄物の収集運搬・解体工事業
HPアドレス	https://daiei-amet.jp/



■大栄アメット事業所概要

中間処理量及び売上高の推移

項目	単位	2021年	2022年	2023年	2024年
産業廃棄物中間処理量	t	26,156	26,622	25,966	24,928
産業廃棄物収集運搬量	t	29,710	30,629	32,979	33,652
一般廃棄物・再生資源 収集運搬量	t	2,564.2	1,272.4	538.0	609.42
産業廃棄物最終処分量	t	12,982	11,823	13,354	12,306
売上高	百万円	855	862	860	828
従業員数	人	45	44	43	42
敷地面積	m ²	25,303	25,303	25,303	25,303

家屋等の解体工事

項目	単位	2021年	2022年	2023年	2024年
件数	件	15	9	7	5
内訳	元受工事	1	0	1	1
	下請工事	14	9	6	4
請負金額合計	百万	26	12	12	5

※2024年7月 解体事業課廃止

3. 自社施設紹介

第3処理場 選別施設

■ 処理能力: 1,040m³/日

■ 許可品目

- ・廃プラスチック類
- ・紙くず
- ・木くず
- ・金属くず
- ・ガラスくず、コンクリート及び陶磁器くず
- ・がれき類

計6品目



第3処理場では産業廃棄物を受け入れ、効率よく再生可能な廃棄物を選別することにより、埋立処分となる廃棄物を削減するように取り組んでいます。

選別方法や作業工程を定期的に見直すことで、従業員の安全を図るとともに、更なる再資源化率及び作業効率の向上を目指しています。2024年に搬入車両の動線を一方通行に変更したことで積込みや荷下ろしにおける作業の効率化や重機燃費を向上させることができました。

メンテナンス チーム



メンテナンスチームでは各種コンテナ及び処理施設の修繕作業を行っています。

随時、点検・修理することで安全性確保・寿命延長を図っています。



第4処理場 破碎施設

- 処理能力: 311.2t/日
- 許可品目
 - ・がれき類

1品目

第4処理場では、がれき類を破碎処理しグループ会社の施設にて再生破石へとリサイクルされています。
またリサイクルが困難な廃棄物については自社最終処分場または、グループ会社の最終処分場で適正に処理されます。

※現在休止中



積替保管 施設

- 保管上限: 120m³
- 施設面積: 306.48m²
- 許可品目
 - ・廃プラスチック類
 - ・紙くず
 - ・木くず
 - ・金属くず
 - ・ガラスくず、コンクリートくず
及び陶磁器くず
 - ・がれき類
 - ・繊維くず

計7品目

積替保管施設は、各取引先等から排出された廃棄物を中間処理施設又は最終処分場へ直接搬入せずに、許可を受けた施設にて一時保管し積替える施設です。
計画的な積み合わせを検討することで、運搬効率を高めるとともに経費削減にも貢献出来ています。



最終処分場 (安定型) 埋立処分

- 埋立容量: 86,000m³
- 許可品目
 - ・がれき類
 - ・ガラスくず、コンクリートくず
及び陶磁器くず

計2品目

最終処分場では、リサイクル処理が困難で性状が変化しないものを埋立処分しています。
事前に埋立処分物の展開検査を実施することで許可品目外の異物混入を防いでいます。
また周辺環境に影響が出ないように配慮しています。

※残余容量(2025年3月24日時点) 71,306.0m³



4. 車両・重機の紹介

業務1課

重機の概要

ホイールローダー



【役割】
廃棄物の積み込み
【バケット容量】
2m³~2.3m³
【台数】
2台

フォークリフト



【役割】
運搬・荷下ろし
(コンテナ・フレコン)
【最大荷量】
2.5t~3.5t
【台数】
6台

油圧ショベル



【役割】
廃棄物の選別及び
積み込み
【バケット容量】
0.3m³~0.7m³
【台数】
4台

破碎機



【役割】
廃棄物を細かく砕くことで
廃棄物の容積を減らす
【容積】
4.8t~311.2t
【台数】
2台

業務3課

収集運搬車両の概要

車種	最大積載量	台数
25tダンプ	11,100t	3台
10tダンプ	9,300t・10,600t	2台
10tコンテナ車	10,600～11,000t	3台
4tコンテナ車	3,800t～3,850t	6台
3tユニック車	3,000t	3台
3tパッカー車	2,650t	1台
3tダンプ	3,000t	1台
2tパワーゲート車	2,000t	1台



4tコンテナ車



3tユニック車



25tダンプ



10tコンテナ車



10tダンプ



2tパワーゲート車

5. 許認可・許可品目

許可証	管轄	優良認定	許可番号	許可年月日	許可有効年月日
一般廃棄物収集運搬業	福知山市	—	福知山市指令第2200-13	2025年4月1日	2027年3月31日
	綾部市	—	綾部市指令第129号	2024年4月1日	2026年3月31日
産業廃棄物処理業 (中間処理(破碎・選別)・ 安定型最終処分)	京都府	—	第02640000745号	2021年12月13日	2026年8月25日
産業廃棄物収集運搬業	京都府	—	第02610000745号	2024年8月8日	2026年8月25日
	兵庫県	—	第02808000745号	2021年4月19日	2026年4月18日
	大阪府	—	第02700000745号	2021年4月9日	2026年4月8日
	滋賀県	—	第02501000745号	2025年3月7日	2030年3月2日
	奈良県	—	第02900000745号	2022年12月10日	2027年12月9日
	三重県	—	第02400000745号	2024年7月31日	2025年11月29日
	福井県	—	第01808000745号	2024年11月10日	2029年11月9日
	石川県	—	第01703000745号	2024年3月18日	2029年3月17日
特別管理産業廃棄物収集運搬業	京都府	—	第02650000745号	2024年8月8日	2029年5月29日
	兵庫県	—	第02858000745号	2023年11月10日	2028年11月9日
	大阪府	—	第02750000745号	2022年4月24日	2027年4月23日
	三重県	—	第02450000745号	2024年7月31日	2029年7月30日
	福井県	—	第01858000745号	2024年8月9日	2029年8月8日

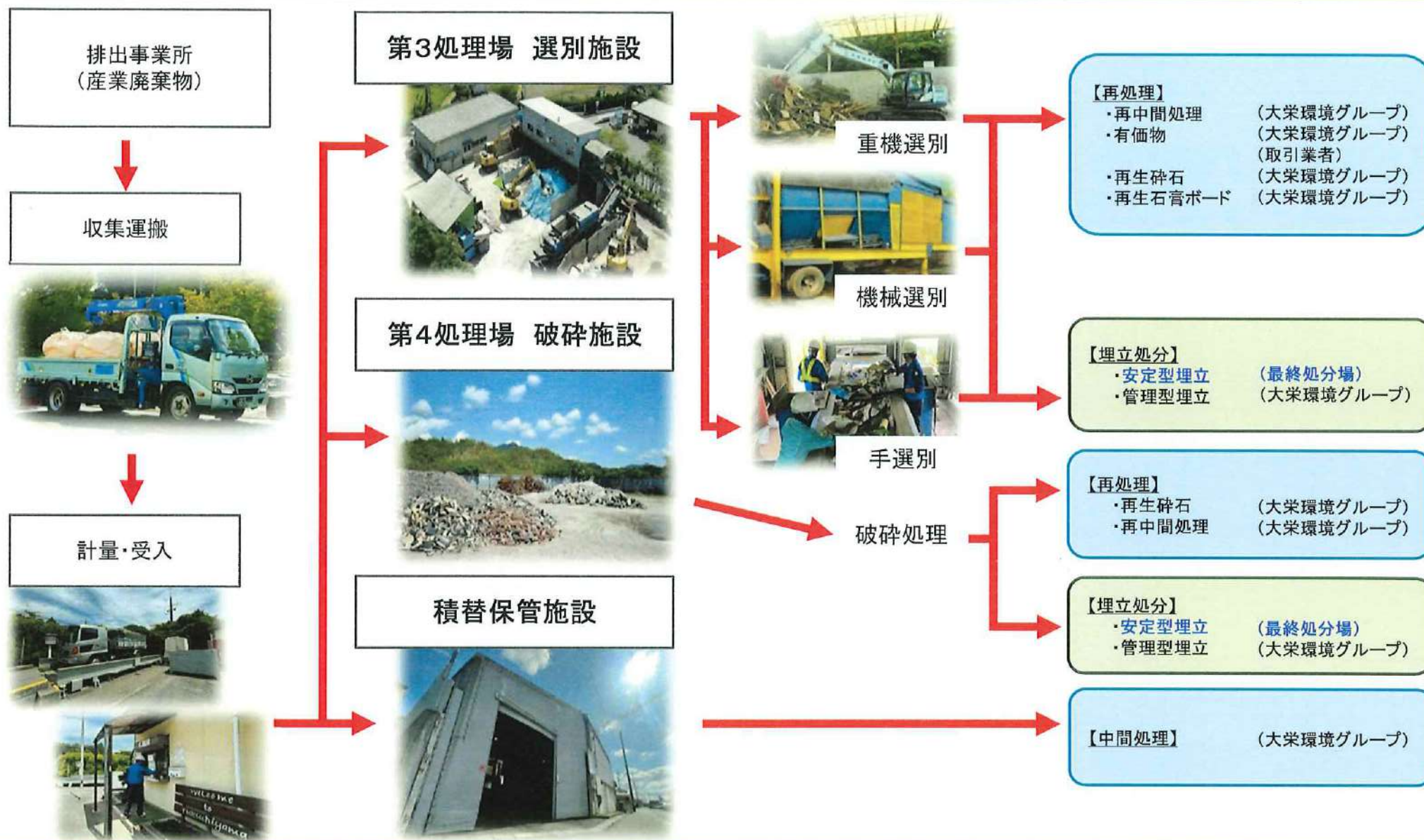
■許可品目一覧 ①

許可品目		中間処理 京都府	安定型 最終処分	収 集 運 搬										
		京都府	京都府	京都府	福知山市	綾部市	兵庫県	大阪府	滋賀県	奈良県	三重県	福井県	石川県	積替保管
産業廃棄物	廃プラスチック類	●		●			●	●	●	●	●	●	●	●
	紙くず	●		●			●	●	●	●	●	●	●	●
	木くず	●		●			●	●	●	●	●	●	●	●
	金属くず	●		●			●	●	●	●	●	●	●	●
	繊維くず			●			●	●	●			●	●	●
	ガラスくず、コンク リートくず及び陶 磁器くず	●	●	●			●	●	●		●	●	●	●
	がれき類	●	●	●			●	●	●		●	●	●	●
	燃え殻			●			●	●			●	●		
	汚泥			●			●	●			●	●		
	廃油			●			●	●			●	●		
	廃酸						●	●			●	●		
	廃アルカリ			●			●	●			●	●		
	動植物性残渣			●			●	●			●	●		
	鋳さい			●							●			
	ばいじん			●			●	●			●	●		

■ 許可品目一覧 ②

許可品目		中間処理 京都府	安定型 最終処分	収 集 運 搬										
		京都府	京都府	京都府	福知山市	綾部市	兵庫県	大阪府	滋賀県	奈良県	三重県	福井県	石川県	積替保管
特別管理 産業廃棄物	廃油			●			●	●			●	●		
	廃石綿等			●			●	●			●	●		
	燃え殻			●			●				●	●		
	污泥			●			●				●	●		
	廃酸			●			●	●			●	●		
	廃アルカリ			●			●	●			●	●		
	ばいじん			●			●				●	●		
一般廃棄物	生ごみ					●								
	紙類					●								
	布類					●								
	プラスチック類					●								
	ごみ				●									
	粗大ごみ				●									

6. 処理フロー図



7. 環境理念・環境経営方針

大栄環境グループ 環境理念

私たちは、事業の社会的責任を強く認識し、最良の技術とサービスにより、
人・地域・地球にやさしい企業を目指し、常に挑戦し続けます。

大栄アメット 環境経営方針

1. SDGs・カーボンニュートラルへの積極的な取り組みにより、持続可能な循環型社会の実現を目指します。
2. 環境関連法規、地域の条例・協定を遵守し、地域社会とともに事業を展開していきます。
3. 廃棄物の適正処理・再資源化率の向上及び、事業系一般廃棄物の削減に努めます。
4. 社有車・重機等の燃料使用量及び、電力使用量の削減に努めます。
5. 水使用量の削減に努めます。
6. 当社及び地域の美化、緑化活動に積極的に参加します。
7. 環境経営の継続的な改善を実施します。
8. 環境経営方針は、全従業員に周知するとともに、社内外に公開します。

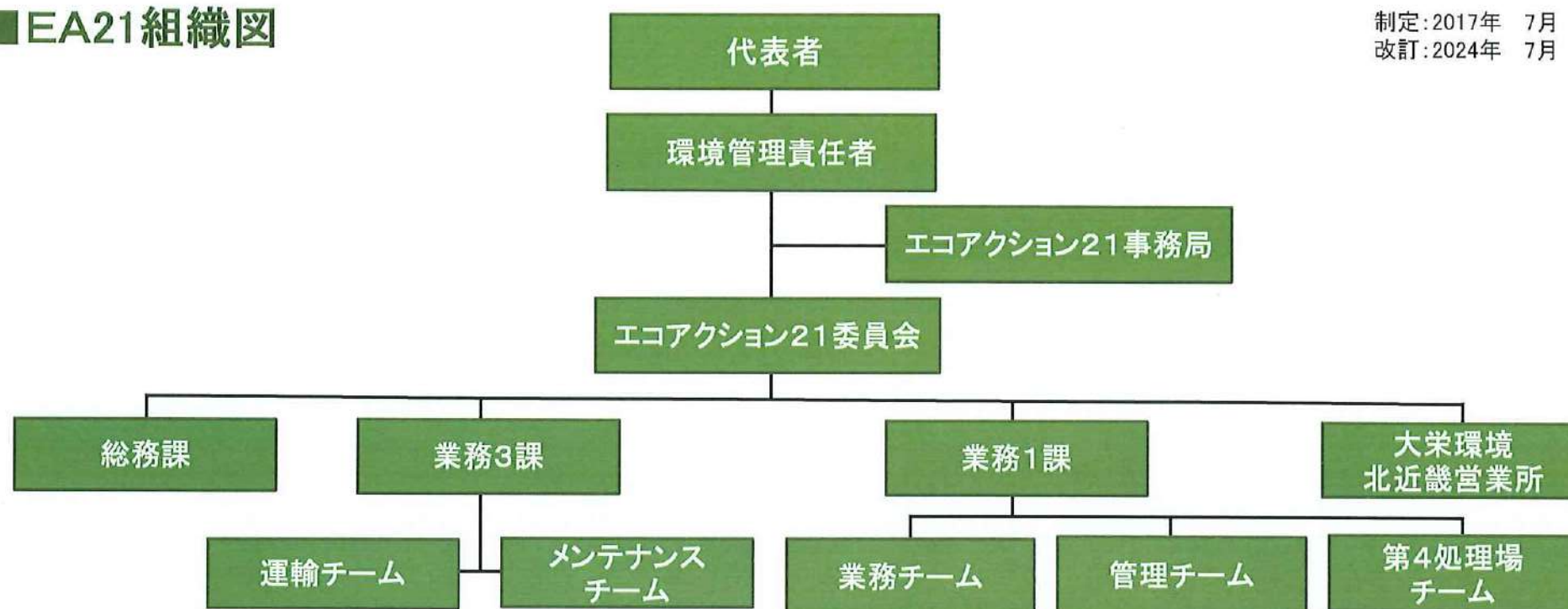
制定：2017年12月1日

改訂：2023年11月1日

8. 実施体制

■ EA21組織図

制定: 2017年 7月 1日
改訂: 2024年 7月 1日



■ エコアクション21事務局会議

毎月エコアクション21事務局会議を開催して、環境経営計画についての進捗状況の情報共有を行っております。また、各課環境担当者からの意見や提案についての議論を行い、環境負荷低減に対し更なる効果的な取り組みを検討し、従業員の環境活動へのモチベーションアップにも努めています。

- 取り組み内容の継続的改善
- 環境意識の向上
- 意見・情報交換
- 法令遵守状況の確認
- 各課教育実施状況の確認など

■ 環境コミュニケーション

各課においてエコアクション21事務局からの報告・連絡事項の伝達を行うとともに、環境経営計画の目標達成に向けての各課取り組みについて話し合い、実施した取り組みの効果等について意見交換しています。

役割・責任・権限

代表者

- 事業所の代表者であり、かつ環境経営システムに関する全ての権限を有する。
- ① 環境経営方針の策定及び見直し
 - ② 経営における課題とチャンスの整理、明確化
 - ③ 実施体制の構築、役割・責任及び権限を定め従業員に周知、経営資源の用意
 - ④ 環境経営全体の評価、見直し及び必要な指示
 - ⑤ 環境管理責任者及びEA21委員の任命
 - ⑥ EA21マニュアルの承認
 - ⑦ 環境経営目標、環境経営計画、環境経営計画実績一覧表の承認
 - ⑧ 環境経営目標の取り組み評価と今後の具体策の承認
 - ⑨ EA21委員会への出席及び議題の審議

環境管理責任者

- 代表者に代わり、環境経営システム全体の構築・運用に責任を持ち、それに必要な権限を有する。(代表者に任命された者)
- ① 代表者へ環境経営システムの実施及び運用状況、実績等の報告
 - ② 代表者からの指示事項の伝達
 - ③ 環境への取り組みの自己チェック評価の承認
 - ④ 環境経営目標の達成状況の評価及び代表者への報告
 - ⑤ 環境経営計画、環境経営計画実績一覧表の評価及び代表者への報告
 - ⑥ 環境経営目標の取り組み評価と今後の具体策の達成状況の評価及び代表者への報告
 - ⑦ 環境教育訓練計画の承認
 - ⑧ 環境関連法規遵守状況の承認
 - ⑨ 問題点は正処置に関する承認
 - ⑩ 問題点は正処置に関する承認
 - ⑪ 環境コミュニケーションの対応に関する承認
 - ⑫ EA21委員会の招集、出席及び議題の審議

EA21事務局

- 環境経営システムの取りまとめ及び維持管理を行う。(代表者に任命された者)
- ① 環境への負荷の自己チェックの作成
 - ② 環境への取り組みの自己チェックの作成
 - ③ 環境経営目標一覧表の作成
 - ④ 環境経営計画、環境経営計画実績一覧表の取りまとめ
 - ⑤ 環境目標の取り組み評価と今後の具体策の取りまとめ
 - ⑥ 事業所全体に関わる環境教育訓練計画の策定及び実施
 - ⑦ 事業所全体に関わる緊急事態の特定
 - ⑧ EA21マニュアルの作成及び維持管理
 - ⑨ EA21審査人による審査への対応
 - ⑩ 「法令等遵守事項月次確認表」の配布及び回収
 - ⑪ 環境関連法規の特定、監視及び評価
 - ⑫ 文書、記録の管理
 - ⑬ 環境経営システムの事務作業全般
 - ⑭ 環境経営レポートの作成
 - ⑮ EA21委員会の招集、出席及び議事進行、議題の審議

EA21委員会

- 担当する課の環境経営システム全般を維持・管理する。
(代表者に任命された者)
- ① 担当する課の環境経営目標の策定
 - ② 担当する課の環境経営計画の策定及び実施
 - ③ 担当する課の環境教育訓練計画の策定及び実施
 - ④ 担当する課の緊急事態の特定
 - ⑤ EA21委員会への出席及び議題の審議、議事録作成
 - ⑥ 問題点は正処置の実施
 - ⑦ その他、担当課の環境に関する業務全般

全従業員

【業務1課】

- ① 環境経営計画の実施及び是正・改善
- ② 環境教育訓練計画の実施及び是正・改善
- ③ 環境関連法規の特定、監視及び評価
- ④ 「法令等遵守事項月次確認表」の配布及び回収
- ⑤ EA21活動の社外PR
- ⑥ 環境コミュニケーションの対応、管理及び是正処置
- ⑦ 管理事務所、植栽、場内導線の管理
- ⑧ 各処理施設棟、休憩所の管理

【業務3課】

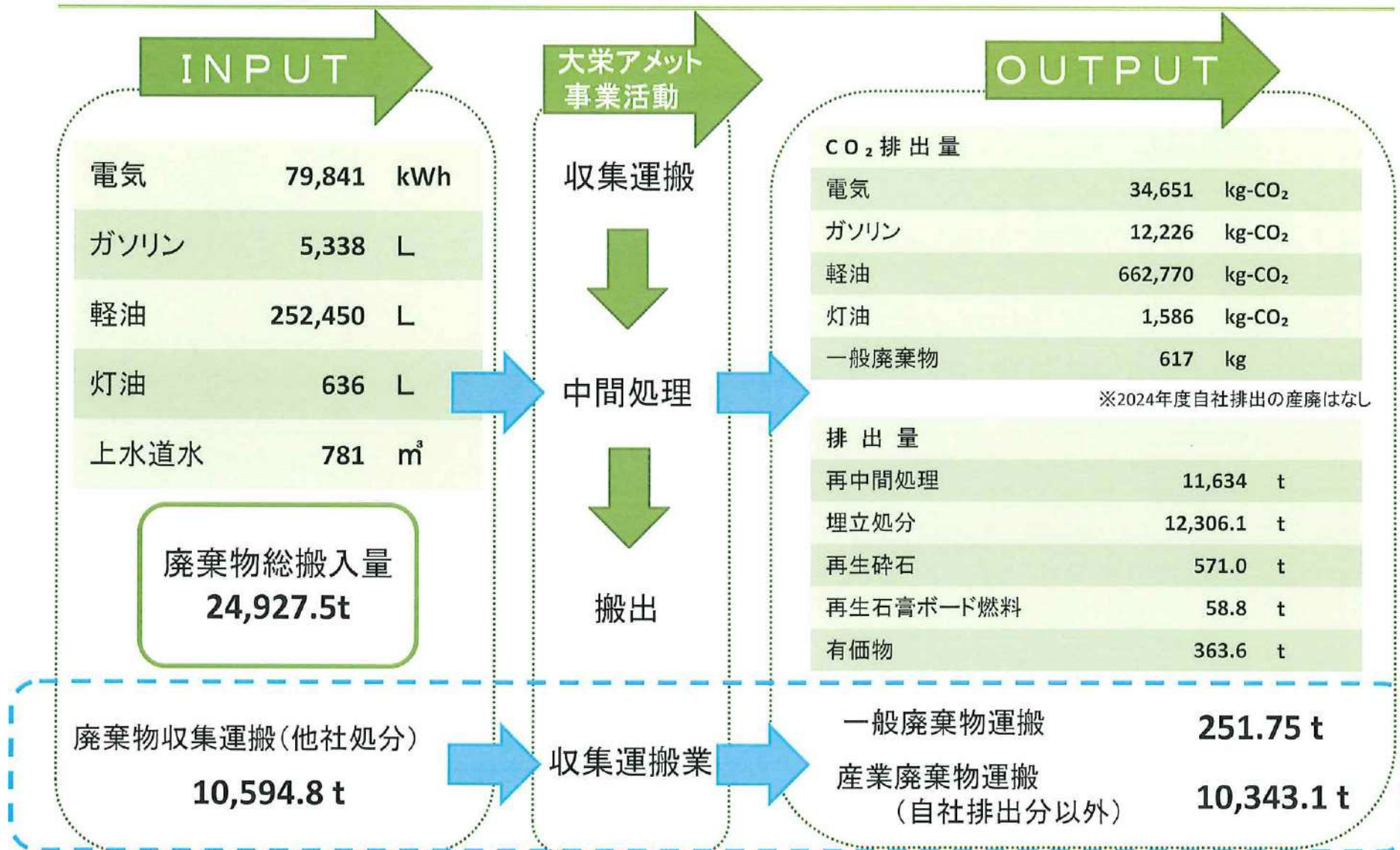
- ① 環境経営計画の実施及び是正・改善
- ② 環境教育訓練計画の実施及び是正・改善
- ③ 環境関連法規の特定、監視及び評価
- ④ 「法令等遵守事項月次確認表」の配布及び回収
- ⑤ EA21活動の社外PR
- ⑥ 環境コミュニケーションの対応、管理及び是正処置
- ⑦ 管理事務所、植栽、場内導線の管理
- ⑧ 収集・運搬関連器材の管理

9. 当社活動とSDGsの関わり

	取組事項	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	6 安全な水とトイレを世界中に	7 持続可能なエネルギーを	8 働きがいも経済成長も	9 産業と地域経済の循環を通じて	11 持続可能な都市を	12 つくる責任 つかう責任	13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	17 パートナリーシップで目標を達成しよう
環境目標	燃料による二酸化炭素の削減	●			●					●			
	電力による二酸化炭素の削減	●			●					●			
	水使用量の削減			●							●		
	受託廃棄物のリサイクル率向上						●	●	●				
	一般廃棄物の削減						●	●	●				
CSRアクティビティ	教育・訓練		●			●	●						
	地域貢献活動				●			●	●	●		●	●
	みどりの活動 (グリーンアワード)									●	●	●	●
	安全への取組	●				●							

10.マテリアルバランス

集計期間: 2024年4月1日～2025年3月31日



11. 過去4年間の二酸化炭素排出量等の推移

項 目		2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素排出量	CO ₂ 排出量(kg-CO ₂)	810,725	764,735	683,735	711,232
二 酸 化 炭 素 排 出 量					
社有車の経済的運転 ガソリン	使用量(L)	8,062	5,351	5,760	5,338
	CO ₂ 排出量(kg-CO ₂)	18,717	12,423	13,373	12,226
収集運搬車両の経済的運転 軽油	使用量(L)	240,011	229,963	206,541	216,236
	CO ₂ 排出量(kg-CO ₂)	629,871	603,502	542,034	567,476
重機の経済的運転 軽油	使用量(L)	44,638	40,568	34,284	36,311
	CO ₂ 排出量(kg-CO ₂)	117,145	106,464	89,973	95,293
灯油使用量	使用量(L)	682	810	661	636
	CO ₂ 排出量(kg-CO ₂)	1,699	2,019	1,647	1,586
電気使用量	使用量(kWh)	103,570	96,477	87,819	79,841
	CO ₂ 排出量(kg-CO ₂)	43,292	40,327	36,708	34,651
上 水 道 使 用 量					
上水道使用量	使用量(m ³)	945	905	966	781
一 般 廃 棄 物 排 出 量					
事業系一般廃棄物排出量	排出量(kg)	733	702	701	617

12. 環境活動計画の評価

■環境経営目標及び達成状況一覧

目標項目	2024年度			中長期の目標		
	目標値	実績値	評価	2025年度	2026年度	2027年度
二酸化炭素排出量削減						
社有車の経済的運転 ガソリン (km/L)	16.83 CO2排出量(kg-CO ₂) —	16.99 12,226.0	○	2024年度目標値 0.5%向上	2024年度目標値 1.0%向上	2024年度目標値 1.5%向上
収集運搬車両の経済的運転 軽油 (km/L)	4.19 CO2排出量(kg-CO ₂) —	4.21 567,476.8	○	2024年度目標値 0.5%向上	2024年度目標値 1.0%向上	2024年度目標値 1.5%向上
重機の経済的運転 軽油 (L/h)	9.865 CO2排出量(kg-CO ₂) —	9.153 95,293.2	○	2024年度目標値 0.5%向上	2024年度目標値 1.0%向上	2024年度目標値 1.5%向上
灯油使用量 (L)	675.6 CO2排出量(kg-CO ₂) 1,683.5	636.8 1,586.9	○	2024年度目標値 0.5%削減	2024年度目標値 1.0%削減	2024年度目標値 1.5%削減
電気使用量 (kWh)	107,811.6 CO2排出量(kg-CO ₂) 46,790.2	79,841.0 34,651.0	○	2024年度目標値 0.5%削減	2024年度目標値 1.0%削減	2024年度目標値 1.5%削減
上水使用量削減						
上水使用量(m ³)	840.0	781.0	○	2024年度目標値 0.5%削減	2024年度目標値 1.0%削減	2024年度目標値 1.5%削減
廃棄物排出量削減						
再資源化率の向上 (%)	17.3	21.1	○	2024年度目標値 0.5%向上	2024年度目標値 1.0%向上	2024年度目標値 1.5%向上
事業系一般廃棄物排出量(kg)	761.04	617.03	○	2024年度目標値 0.5%削減	2024年度目標値 1.0%削減	2024年度目標値 1.5%削減

■ 社有車の経済的運転～燃費の向上～



目標値

16.83km/L

達成



実績値

16.93km/L

取り組み内容

給油量、走行距離を記録し、燃費データの蓄積

適切な車両整備の実施

エコドライブの推進及び実施

2024年度対象車両(社有車)

営業車両 : 3台
総務課 : 3台
業務3課 : 3台
業務1課 : 2台

計11台

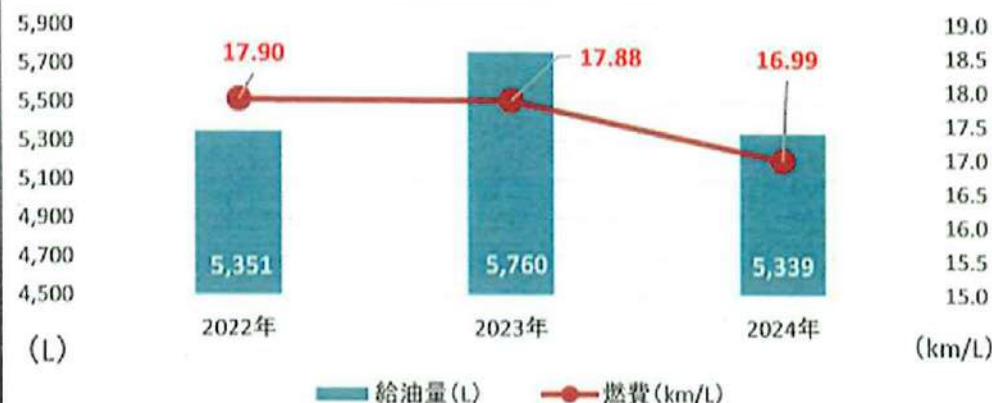


営業車両にEA21ロゴマークを表示



☆安全運転日報の記入を徹底しています。
☆車両の使用前及び使用後のアルコールチェックを実施しています。

給油量と燃費の推移



担当者のコメント及び次年度の取り組み

車両の定期的なメンテナンスやオイル交換を実施することで燃費の向上に繋がりました。安全運転日報にドライバー自身が走行距離や給油量等を記入することで、各々が運転特性を把握する機会となり、燃料消費量やCO₂排出量を減少させる為のエコドライブ意識の向上に寄与しています。また各車両の燃費に大きな変化があった際は、事務局員がドライバーへ声掛けを行い原因究明と改善に努めています。

2024年度は1台新車の増車があり、今後の燃費の向上が期待されます。また、解体事業課の廃止に伴い、解体課で管理していた車両3台をそれぞれ別の課で管理することになり、使用頻度や走行距離の減少が見られました。今後は長距離を走行する場合は、燃費性能の良い車両を選定するなど、運用の最適化に取り組んでいきます。

■ 収集運搬車両の経済的運転～燃費の向上～



目標値

4.19km/L

達成



実績値

4.21km/L

取り組み内容

給油量、走行距離を記録し、燃費データを蓄積する

適切な車両点検整備を実施する

給油時に乗務員自身が【燃費・CO₂排出量速報表】に記入する事で
担当する車両の平均燃費を把握する

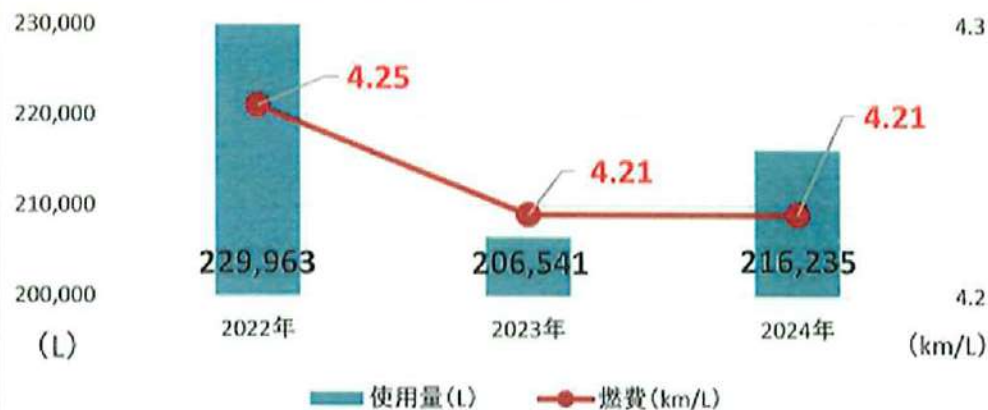


毎月の安全会議で各乗務員
にエコアクションの活動内容
の周知や各車両の燃費を共
有をすることでエコドライブへ
の意識付けを行っております。

運行前点検を確実に行うこ
とで車両トラブルを未然に
防止し、安全運行に努めて
います。



軽油使用量と燃費の推移



担当者のコメント及び次年度の取り組み

解体事業課廃止に伴い、2024年7月から乗務員が2名増員となりました。予備車にしていた4tコンテナ車が常時稼働するようになったことや、遠方の収集案件が増加したことで軽油使用量が増加しましたが、2023年度と同等の燃費を維持することが出来ました。2022年度から開始している各車両の給油時の燃費を乗務員自身が記入する燃費速報を今年度も継続しており、乗務員のエコドライブ意識の向上を図っております。

2025年度の計画値については、2024年度の目標値から0.5%向上させた4.21km/Lとなります。引き続き達成出来るよう乗務員への周知・教育を行っていきます。

■ 重機の経済的運転～燃費の向上～

目標値

9.865L/h

達成



実績値

9.153L/h

取り組み内容

アイドリングストップを実施する

搬入量に見合った効率の良い運用で、重機を使用する

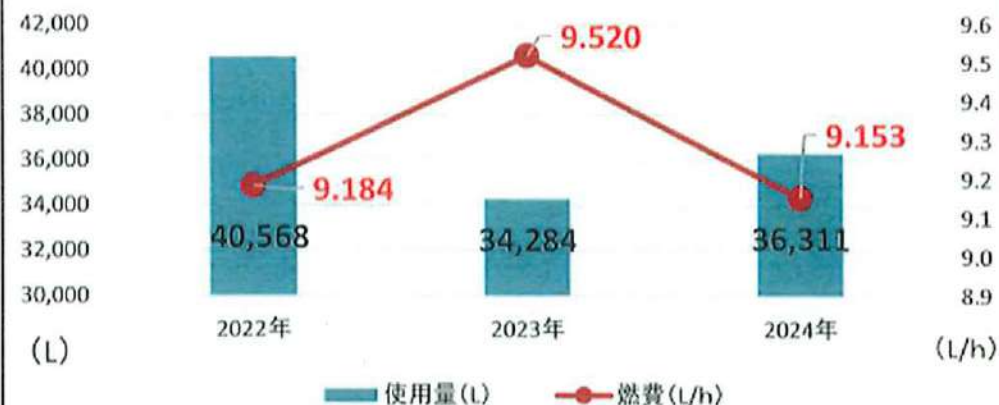
重機のメンテナンス、点検を計画的に実行する

重機のメンテナンスをこまめに行うことで重機の故障を防ぎ、作業の遅延や作業効率を落とさないようにしています。



重機のエコ運転について年2回教育の場を設け各従業員知識を伸ばし意識向上に努めています。

軽油使用量と燃費の推移



担当者のコメント及び次年度の取り組み

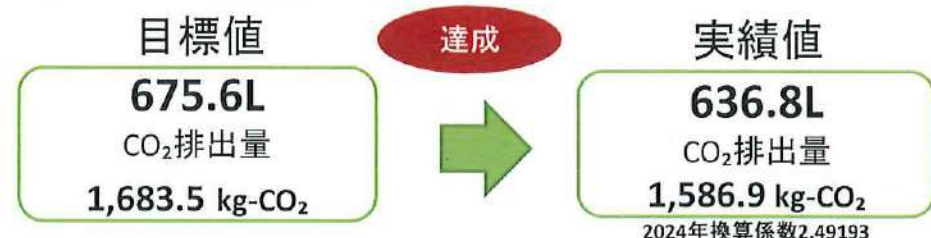
2024年4月に第3処理場のレイアウト変更工事が完工し、搬入車両の動線を一方通行に変更することで積み込みや荷下ろしにおける作業の効率化が進みました。

不要なアイドリングをなくし、スムーズな運転を心がけるよう日々声掛けを行い意識づけを図りました。

搬入廃棄物の内容に合わせた荷空け場所の選定を行うことで作業工程の削減・重機の燃費向上につながりました。

またメンテナンス作業をこまめに行い、重機の最適な状態を維持することに努めました。次年度も引き続き重機のエコ運転に努め、効率の良い作業方法を指示・指導し、併せてメンテナンスも強化していきます。

■ 灯油の節約による二酸化炭素排出量の削減



取り組み内容

灯油使用データを蓄積する

室内温度を適正に保ち、灯油を節約する



灯油の購入前には各課へ事前連絡を行い数量の情報共有を行う。また、残量に余裕がある場合は他課へ分配する。

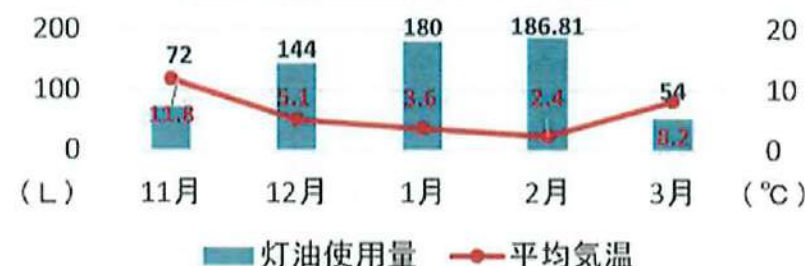
各課・各フロアに温湿度計を設置し、適切な室温管理の目安としています。



灯油の年間使用量及び月別内訳



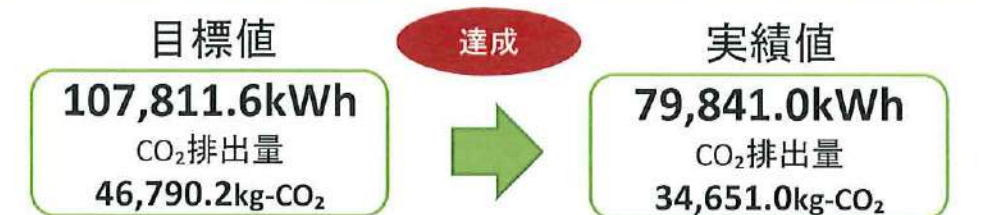
月別灯油使用量及び平均気温



担当者のコメント及び次年度の取り組み

2023年度と比較して、灯油使用量24L削減し年間目標を達成しました。しかし、2月は購入時の数量確認が不十分で月間目標未達成となりました。引き続き社内メールで各課の購入数量を共有し、計画数量の超過を防ぎます。また、計画的な利用を徹底し、残量に余裕がある場合は他課への分配を行うことで灯油使用量の節約による二酸化炭素排出量の削減に努めていきます。

■電気使用量の二酸化炭素排出量の削減



取り組み内容

電気使用量及び料金の把握

エアコンの使用場所の限定や室温管理実施
(設定温度: 夏季25℃以上、冬季23℃以下)

不要な電灯やPCディスプレイOFFの実践



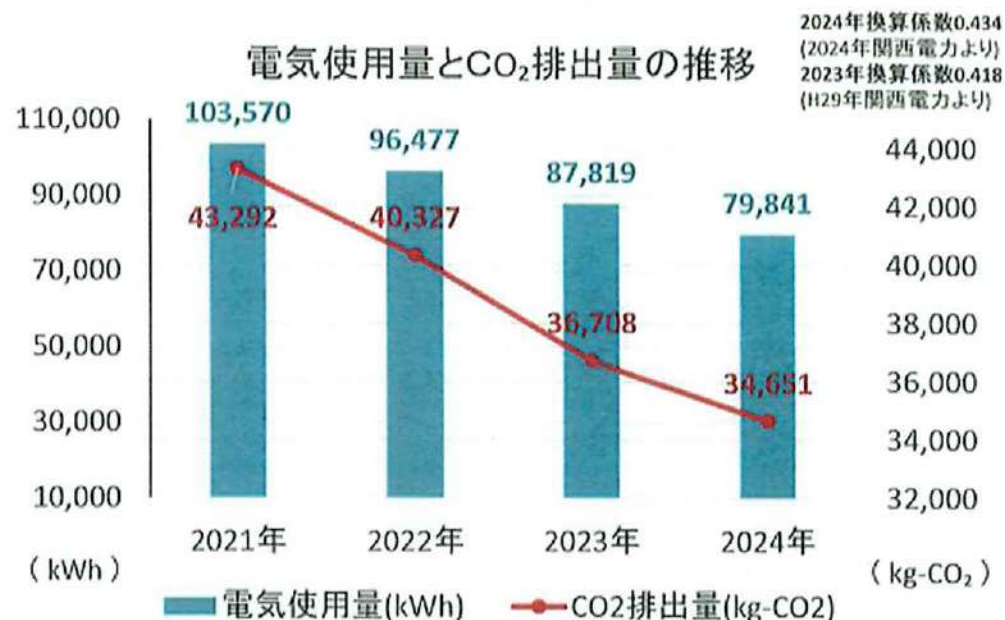
本部ビル屋上ではソーラーパネルによる太陽光発電を行っています。



各課・各フロアに温湿度計を設置し、適切な室温管理の目安としています。



積替保管施設に加え、第3処理場事務所では2024年5月よりLED照明を使用しています。



担当者のコメント及び次年度の取り組み

各月変動制の目標値を設定し、2023年度と比較して電気使用量7,978kWh削減し、毎月の目標値及び年間目標値も大幅に達成しました。

2024年7月に解体事業課の廃止に伴い毎月150～400kWhの削減にも繋がっています。

電気使用量の目標値に対しCO₂排出量は12,139kg削減し、一般家庭4世帯分(年間約3,000kg/世帯)排出量に相当します。

今後も引き続き電力の効率的な利用とCO₂排出量の削減に取り組んでいきます。

■ 水道使用量の削減

目標値

840m³

達成



実績値

781m³

取り組み内容

使用水量・料金を把握する

蛇口の閉栓確認

水道設備の点検を強化する

節水推奨のシールを掲示し、従業員の意識を向上させる



第3処理場では地下水ポンプ設置により、場内散水を地下水で賄えるようになり、※前年同月比で月平均20m³の使用量削減につながりました



第2処理場では洗車に使用しているホースを節水ノズルに付け替えたことで※前年同月比で月平均10m³の節水につながりました

※前年同月(4月～12月)で比較

水道使用量の推移



担当者のコメント及び次年度の取り組み

掲示物による注意喚起、日頃の呼び掛け・教育により従業員の節水意識が向上しています。

設備面では第2処理場の洗車用ホースに節水ノズルを採用したことによる効果と、第3処理場の地下水ポンプの安定稼働により大幅な水道使用量削減につながりました。

しかし年度末には地下水ポンプの故障で水道使用量が増加したことから、今後は設備点検をさらに強化していきます。

2025年度は地下水を利用した自動散水設備や雨水利用も計画しており、更なる節水に努めるとともに、従業員への呼び掛けを継続して行っています。

■産業廃棄物排出量の削減～再資源化率の向上～



目標値

17.3%

達成

実績値

21.3%

取り組み内容

朝礼時に再資源化強化の呼び掛けを実施する

廃棄物・有価物・選別方法等に関する指導・教育を行う

搬入物の性状に見合った、効率の良い選別方法を検討する

—RPF原料の搬出開始までには—

廃棄物の中からランダムに抽出した各種サンプルを、受入先であるグループ会社に送り、RPFに適した原料かの判定を行う作業がありました。

その後、試験的に搬出を行い、RPF原料として適合した品質であると判断されたため有価物としての搬出が可能となりました。

搬入
廃棄物

抽出

**RPF(固形燃料)に
使用できる原料**

ポリプロピレン(PP)、ポリ
エチレン(PE)、ポリスチ
レン、ウレタン樹脂、硬質
プラスチック など

搬出

同グループ施設
にて再資源化



マテリアル品目搬出量とリサイクル率の推移



担当者のコメント及び次年度の取り組み

再資源化強化の呼び掛けや教育を地道に行い従業員の意識向上に努めました。

第3処理場のレイアウト変更工事が完工したことにより、リサイクル対象物保管ヤードが明確化され、抽出作業に注力することが出来ました。

また、今までリサイクル品目の対象外だった生木も木くずとして搬出できるようになったことや、再資源化対象物にRPFが加わり有価物として搬出できるようになったことで目標を大きく達成することが出来ました。

2025年度はトロンメルを新設し効率的な選別作業が出来るようになるため、再資源化率の更なる向上を目指します。

■事業系一般廃棄物の排出量を削減



目標値

761.04 kg

達成



実績値

617.03 kg

取り組み内容

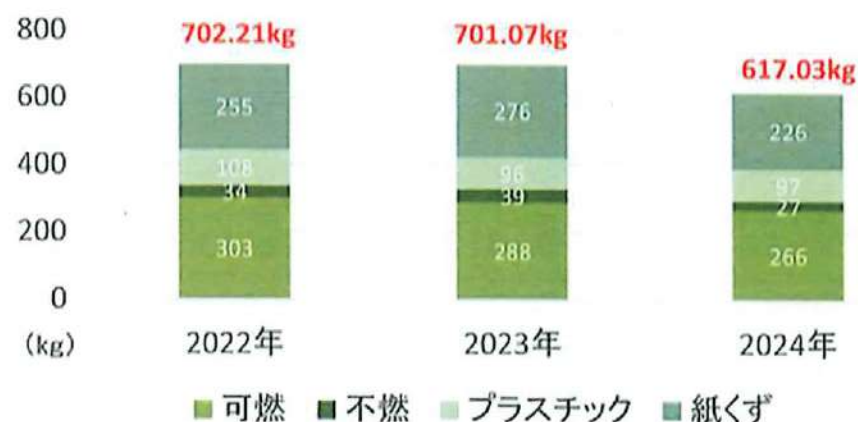
廃棄物の分別を徹底し、排出量の削減

プラスチックごみ削減の促進

用紙の使用量を削減する為、電子データの積極的な活用

マイ箸や再生利用できる食器使用の推進

排出量と内訳



担当者のコメント及び次年度の取り組み

2024年度は全体的に大きく排出量を削減することが出来ました。主な要因として、2024年中期より清掃の際に使用していた使い捨て清掃用品を、雑巾やモップ等繰り返し使用出来るものに変更したことによる可燃ごみの削減、裏紙使用の周知徹底と電子データの活用による紙くずの削減が挙げられます。また食べ残し等の生ごみがほとんど見られなくなりました。

次年度は一層の使い捨て用品の削減と電子データの活用を促すとともに、プラスチックごみの削減に重点を置き、引き続き一般廃棄物の発生量を削減出来るように継続した呼び掛けを行っていきます。



☆各ごみ箱に分別方法を貼り付けて分別を促進！

☆複合機の横に裏紙置場を設置して利用を促進！

☆各課のEA21事務局員が計量時に課内の廃棄物をチェック！

13. 法令遵守

～環境関連法規等の遵守状況確認及び評価の結果、ならびに違反、訴訟の有無～

■ 遵守事項

法規制等	事項(法規制・自主規制)	遵守評価
廃棄物処理法	・産業廃棄物の保管 ・委託契約書(5年間保管) ・マニフェスト伝票管理 (5年間保管) ・産業廃棄物管理票交付状況報告書 ・産業廃棄物の運搬(運搬車の表示) ・マニフェスト伝票携帯	○
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・収集運搬、処分業許可更新及び変更等	○
計量法	・計量法に基づく計量器の法的定期点検	○
道路交通安全法	・安全運転管理者の選任	○
貨物自動車運送事業法	・運行管理者選任・届出	○
道路運送車両法	・整備管理者選任・届出	○
フロン排出抑制法	・廃棄物の適正処理(発生時のみ)処理委託書提出、処理報告書の受理 ・特定施設の自主点検の実施	○
消防法	・消火対象物に設けられている消防設備等 ・消火器、火災報知設備、外線及び機能点検 ・点検記録届出は3年毎に消防へ届出	○

環境関連法規制等の遵守状況の結果、環境法等の違反や訴訟はありませんでした。

また、関係当局から違反等の指摘は過去3年間ありません。

2024年度については外部からの苦情はありませんでした。

■法令遵守事項月次確認表

大栄アメットでは、業務に係る環境関連法規の遵守状況を記録し、各課で月次確認表を作成して実施漏れがないように取り組んでいます。

[illegible]

14. 教育(講習)・訓練の実施



年度計画に基づき各種教育・訓練を実施しています。

教育(講習)では、環境関連法規や廃棄物の選別要領、収集運搬時における安全運転等の教育によりコンプライアンス意識を高め、事故防止に努めています。

訓練内容については、想定される緊急事態について作業手順書に沿って実施しています。

部署	教育項目
各課共通	EA21活動内容及び環境経営活動における目標の周知
	経営方針教育
	EA21新入社員教育
業務3課	安全運転・エコドライブ講習
	収集車両における法律的知識の教育
	収集運搬中の火災訓練
	タイヤチェーン装着訓練
業務1課	廃棄物貯留ヤードからの火災訓練
	油類流出時に対する対応
	廃棄物飛散に対する対応
	重機の経済的運転講習
	リサイクル及び廃棄物に関する講習
	職場生活におけるCO ₂ 排出量削減講習(電気、水道、一般廃棄物)

■ 教育（講習）

各種教育

年度計画通りに教育・講習を進めることが出来ました。
 同じテーマを定期的に取り上げることで知識の積み上げが図れました。
 質疑応答の時間も設け、理解度を確認しながら説明を加えることで、
 従業員の関心を高め正確な情報を伝えることが出来ました。



業務3課における教育の様子



業務1課における教育の様子



新入社員教育の様子

教育 科目	実施 場所	実施 方法	内 容	2017年												2018年													
				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
業務1課	会議室	座学	社内研修（新入社員）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
業務2課	会議室	座学	社内研修（新入社員）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
業務3課	会議室	座学	社内研修（新入社員）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
業務4課	会議室	座学	社内研修（新入社員）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
業務5課	会議室	座学	社内研修（新入社員）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
業務6課	会議室	座学	社内研修（新入社員）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
業務7課	会議室	座学	社内研修（新入社員）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
業務8課	会議室	座学	社内研修（新入社員）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
業務9課	会議室	座学	社内研修（新入社員）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
業務10課	会議室	座学	社内研修（新入社員）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

環境教育訓練計画表

新人教育(OJT)

- ・上司や先輩が計画に沿って指導する
- ・目標は明確化・段階的に設定する
- ・記録シートを用いて理解度や成長スピードを把握し、毎日上司がフィードバックを行う
- ・個人の成長に合わせ目標計画も都度調整する



指導することで先輩社員のスキルアップにもつながり、組織力が向上いたしました。
 新入社員の成長とともに仕事の分担がしやすくなり、業務負担の偏りの解消につながりました。



OJT記録

■ 資格～優秀な人材の確保・業務負担の偏りをなくす～

業務1課

施設保全や業務の負担軽減、体制強化を図るため、資格取得・スキルアップ教育への参加を推進しました。

車両系建設機械運転者が増えたことで処理場の作業計画がたてやすくなりました。
(2023年度 3名 → 2024年度 5名)

資格・教育	
・フルハーネス型墜落制止用器具特別教育	2 名
・高所作業車運転技能講習	1 名
・建設系車両機械(整地)	1 名
・建設系車両機械(解体)	1 名

業務3課

有資格者を活かすため、大型免許などの特殊免許を保持している乗務員に複数車種への乗務機会を与え、収集依頼に対してフレキシブルな対応ができる体制を構築しています。

車種	乗務担当者	有資格者
大型車(10t・25t)	6 名	8 名
ユニック車(3t)	3 名	5 名

■ 訓練

タイヤチェーン訓練

2024.11.8実施

積雪が多い地域性である事を考慮し、スタッドレスタイヤ装着は必須ですが、雪道走行の安全性をさらに高めるために外部講師を招いて、毎年11月頃に4tコンテナ車を用いてタイヤチェーンの装着訓練を実施しています。
乗務員が実際に体験することにより、積雪時にも落ち着いて対応出来るようにしています。



消火訓練

2025.1.30実施

処理場内で火災が発生したと想定し、訓練用の水消火器を使用した消火訓練を実施しています。迅速な初期消火対応が出来るように、消火器の使用方法、設置場所を再度確認し従業員全員が訓練に参加することで防災意識を高め、いざという時に冷静に対応出来るようにしています。



避難訓練

2024.7.23実施

地震や火災、河川の氾濫といった災害時における避難訓練を実施しています。実施方法としては、訓練開始日時を非公開にして行い、各従業員が冷静に安全な場所まで避難して、素早く安否確認が出来るようにしています。



15.環境活動



グリーン購入の促進について

取り組み内容

- ・購入商品、数量、金額を把握する。
- ・環境に配慮した商品の情報共有を社内で行い、事務用品等購入の際に活かす。

事務用品を購入する際は、購入者が複数の商品と比較検討し、可能な限り環境に配慮した商品を選ぶよう努めています。環境対応商品の購入実績については毎月集計しています。

また、詰め替え可能な商品を積極的に活用することにより、廃棄物の削減にも努めています。

グリーン購入率



環境配慮への取り組み



太陽光発電

本部ビルの屋上に、太陽光パネルを設置し発電を行っています。
発電した電力は即時使用し、余剰分を電気事業者へ売電しています。

節電・節水



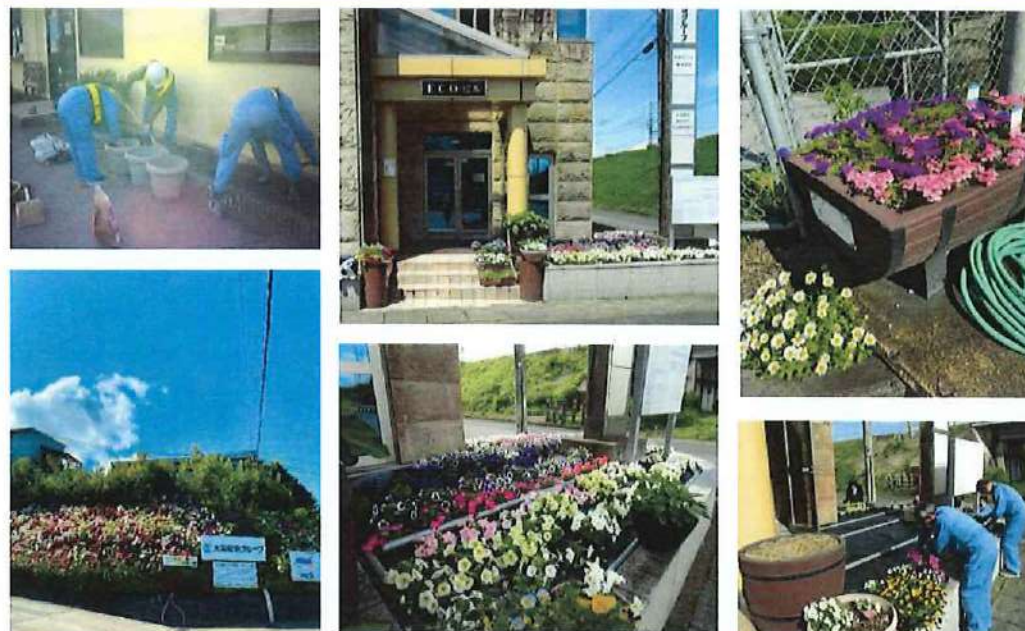
水まわりや電気スイッチの付近には節水や節電に関する呼び掛けの案内を掲示し、節水・節電を心掛けています。

設定温度: 夏季25℃以上
: 冬季23℃以下

■みどりの活動



四季折々の花でお客様をお迎えできるように
皆でウエルカム花壇の育成に取り組んでいます。
毎日の水やりや時期ごとの植え替えを全従業員
で分担して行っており、団結力や環境意識向上に
もつながっています。
花が咲き終わったら種や球根を取り、次の年
に向けて保管しています。
植物の変化や成長を日々観察し、達成感や喜び
を皆で共感しています。



緑の活動について各課で競い合う【グリーンアワード】を
開催しています。これにより各課内の団結力が高まり、
みどりの活動への意識が高まりました。

各課グリーンアワードのレポートを提出



2024年度の優勝は業務1課でした



■ 美化活動



大栄アメットでは、年に1度の側溝清掃や、月に1度の各施設周辺の清掃活動を継続的に実施し、地元地域の環境美化に取り組んでいます。

これらの美化活動を通じて、地域住民の皆様との交流を深めるとともに、従業員一人ひとりの環境意識の向上を図り、環境の改善に努めています。

本社周辺の側溝清掃



梅雨時期を前に、地元自治会と連携を取り、本社・本部周辺の側溝清掃を実施しています。

本社周辺の社外清掃



月に1度クリーン活動として、各施設周辺の清掃を実施しています。様々な不法投棄物があります。

安全管理・健康管理



安全管理

従業員の安全を守り、労働災害を防止するために必要な取り組み

- 安全運転教育・火災訓練の実施(業務3課)
- 安全衛生活動・火災・避難訓練の実施(業務1課)

・ヒヤリハット報告

(実際に起こった事案を例に危険な状況や危険予知活動の重要性について理解を深める)

- ・労働安全衛生法に基づく教育
- ・運転手としての心構え、車両の構造上の注意事項や、安全を確保するための遵守事項の確認
- ・現場のルールやマニュアルの確認

健康管理

従業員の健康状態を把握し、健康増進を促すための取り組み

- 健康診断の実施(全従業員対象)
- ストレスチェックの導入(全従業員対象)
- 体温測定・アルコールチェックの実施(業務3課)点呼時実施
- 熱中症対策(業務1課)

- ・熱中症に対する基礎的知識の教育を実施
- ・朝礼での注意喚起
- ・環境管理温湿度計を設置-WBGTに基づいた休憩指示-
- ・水分補給の声掛け(20分おき)
- ・熱中症対策用備品の常備(経口補水液・塩分タブレット・熱冷却シート)

熱中症対策

10時と14時にWBGT温度を計測

30℃を超える場合は	50分作業	10分休憩
(作業中水分補給を義務付け、作業中水分補給を義務付ける)		
32℃を超える場合は	40分作業	20分休憩
(作業中水分補給を義務付け、作業中水分補給を義務付ける)		
34℃を超える場合は	20分作業	30分休憩



16. 大栄環境グループの取り組み

■ ペットボトルキャップの提出



回収したペットボトルキャップは、
グループ会社にてリサイクルパレットの原料に利用しています。
その原料価格相当分を J C V (世界の子どもにワクチンを日本委員会)
に寄付しています。

2024年度実績 : 17,208.48 kg

258,128 円 寄付

約 **12,906人分** のワクチンになりました！



■ 小学生環境ポスター



子供たちの環境学習支援活動の一環として、
地元の小学生の子供たちを対象に環境ポスターの募集を行っています。
環境問題に関する意識向上を目的に2011年からスタートし、
年々参加していただける小学校が増えています。
2024年度のテーマは「私たちのもったいない」



■サステナブルラリー

サステナブルラリーは全従業員参加型の環境活動です。項目はSDGsの17個の目標を組み合わせたものとなっており、実施状況を数値化し評価するもので、誰でも無理なく取り組む事ができる環境活動となっています。サステナブルラリーに取り組む事で環境に興味・関心を持ち、自発的に環境活動に参加してもらうことを狙いとしています。

サステナブルラリー 2024			得点表											
テーマ	項目	内容	1点	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
ウェルビーイング	エシカル	エシカル消費の促進	①購買履歴の分析にエシカル消費を記入 ②「エシカル消費」の取組を報告する	1点										
	健康	自分の健康意識を高める	健康意識を高める	1点										
	ダイバーシティ	ジェンダー平等を自分事に	男女の関わり、意識/態度を改善する取組	1点										
	防災	防災を身近に	防災マニュアルを学ぶ 防災訓練に参加する	1点										
	地球温暖化	地球温暖化を減らすアクション	カーボンフットプリント削減 1点/割	1点										
		地域貢献への参加	1割/月以上の参加	1点										
	知識	環境知識の習得	環境意識を高める	1点										
	環境リソースの活用	毎月決められたリソースに報告	1点											
	スキル	リスキリング	1割/月以上のスキルアップ 資格取得(1点/割)	1点										

■環境川柳

環境川柳はサステナブルラリーと同様、SDGsと関連付けたテーマをもとに各々が一句詠んでいます。優秀作品はグループ内で表彰され、社内ネットワークで掲示されています。

環境川柳コンクール

月	作品	作者	賞状
1月	環境川柳	〇〇	賞状
2月	環境川柳	〇〇	賞状
3月	環境川柳	〇〇	賞状
4月	環境川柳	〇〇	賞状
5月	環境川柳	〇〇	賞状
6月	環境川柳	〇〇	賞状
7月	環境川柳	〇〇	賞状
8月	環境川柳	〇〇	賞状
9月	環境川柳	〇〇	賞状
10月	環境川柳	〇〇	賞状
11月	環境川柳	〇〇	賞状
12月	環境川柳	〇〇	賞状

■環境レター



大栄環境グループの各事業所がSDGsと関連したテーマの環境レターを毎月持ち回りで作成し、全事業所で掲示しています。グループ全体の意識・知識の向上を図るとともに、毎月出題される環境クイズについて従業員一人ひとりが考えることによりSDGsへの関心を高めることができます。
(答えは次月号に掲載)



SDGs 私たちの約束

大栄環境グループは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



・エネルギーの創出



太陽光発電やバイオマス発電等の再生可能エネルギー発電量を高め、地域やエネルギーのクリーン化に寄与

・資源循環の推進



かけがえのない資源であるさまざまな廃棄物を効率的にリサイクルし、資源循環量を高めます

・災害復興支援



迅速な復旧・復興のため災害廃棄物の一日も早い処理を目指します

・森林保全事業の推進



環境と経済を両立させる効率的な森林保全事業を展開し、日本の林業再生に貢献します

・パートナーシップの強化



積極的なコミュニケーションやパートナーシップの強化により、さまざまな社会課題解決に貢献します

・地域循環共生圏の構築



民間の発想による効率的なインフラ整備により課題を解決し地域社会へ貢献します

・2050年温室効果ガス実質排出ゼロへ



事業活動によって排出されるCO2の排出量の評価、要因分析を行い、排出抑制へ取り組みます

・ダイバーシティの推進



あらゆる人が個性を活かして自分らしく活躍できる職場づくりを進めます

17. 代表者による評価と見直しの結果・指示

【目標・環境経営計画】 【変更の必要性:有】

2024年度の環境経営目標及び環境経営計画については、全項目の年間目標が達成となった。各取り組みに対し、多くの従業員が意欲的に行動できたことで達成に繋がったと感じられる。

是正処置対象の上水使用量削減については、閉鎖後の解体事業課事務所での漏水、地下水汲み上げポンプの故障による処理場での上水使用、各課の緑化活動が活性化したことによる上水使用量の増加が要因として挙げられる。問題点は是正処置報告書に記した指示と対策を確実に実行し、今後の課題として取り組んでいくこと。

再資源化率の向上については、2024年度下期より対象品目の増加に伴い大幅に目標を達成した月が見受けられた。しかし搬出先の状況や市場の影響を受けやすい項目である為、外的要因のみに起因することなく、社内で継続してPDCAサイクルをまわし、積極的に活動を続けることにより、環境に振り回されるだけの結果からの脱却を目指していくこと。

【環境経営システムの各要素(環境経営方針含むシステム全般)】 【変更の必要性:有】

2024年7月から、解体事業課を廃止したことにより実施体制を変更しました。

環境関連法規等の遵守確認方法には特段の見直しはありませんが、法改正の際には法令チェックリストの見直しを適宜行っています。

【全体を通して】

2024年度の環境経営活動につきましては、全ての項目の年間目標を達成することが出来ました。

事務局会議等で議論された内容を、各事務局員が担当課内で水平展開、ブラッシュアップすることで、この環境活動が全従業員参加のより実効性のある内容へと変容していることが見受けられました。また、各課やグループ会社の垣根を超えた環境活動も徐々に増えてきており、このEA21の活動を通じて様々な知識や経験を得る機会となっています。

2025年度も、物価高によるコストの上昇、優秀な人材の育成・確保、カーボンニュートラルを始めとした環境問題への取り組み等の重大な問題が山積しています。環境活動と事業活動とのバランスを図りながら、より実効性のある取り組みが社会的に益々求められている今現在、このEA21の活動を通じて、大栄アメットの業務及び環境活動への取り組みを明確化・透明化することで企業価値の向上を図ります。そのためには、各事務局員が中心となって全従業員の環境活動への参画意識を高め、各自の行動変容に繋がるような効果的な取り組みを計画・実行し、継続的改善に努めてまいります。

大栄アメット株式会社
代表取締役 大田 成幸

